

もっと自由に自分らしく 都市計画を考えよう

柄谷 友香 教授

Prof. Karatani Yuka

都市の計画

2年前期／専門部門（地域計画科目群）

都市の課題を把握し、改革するために

— この「都市の計画」の講義内容を教えてください。

「都市計画」とは、都市に関わる様々な課題を的確に把握し、よりよい将来を実現するために、都市やそこで暮らす人たちに対して働きかける行為だと考えています。この講義ではまず、都市計画の立案から実施までのプロセスで必要とされる基本的な法制度や仕組みを解説します。必要十分な基礎知識を得たうえで、環境や景観、防災などの都市問題や国内外の具体事例を紹介し、問題の本質を問いながら解決に向けた議論を展開します。

レポート課題では「わがまち」に置き換えて、問題の発掘とサーベイ、解決策を自ら考えてもらいます。講義で学んだ知識や方法論を「わがこと」として昇華させることが目的です。

— 講義では、たくさんの事例から学んでいくんですね。

もちろん、都市計画のためには法制度の知識が必要不可欠です。しかし、都市計画初学者を対象としているこの講義では、法制度の解説は可能な限り最小限に抑え、国内外の具体的な事例を多く紹介するようにしています。法制度を覚えることに重点を置きすぎると、制度前提のプランニングしかできなくなってしまふ可能性があります。既存の制度をなぞるだけでは本来行うべき都市計画の改革ができません。都市計画に対する「考

え方」をどう変えていく必要があるのか、手掛かりをどうつかむのか、そのヒントの提示や思考の訓練に重点を置いています。若いうちに、志高く発想を自由に広げられるようにしておくことは、都市計画の専門家を目指す学生にとってはもちろん、その他多様な道に羽ばたく学生にとっても、大切な経験になると思います。

ものごとを見つめる視点、プランニングの力

— 講義を進めていくうえで、先生が大切にしていることは？

都市計画、プランニングといわれる能力や視点は、一度身につけると社会のさまざまなシーンで活かすことができます。頭で理解するだけでなく、しっかりと身につけられるよう、最新の都市計画に関する知識と話題を提供しながら、できる限り楽しく講義を進められるよう、心がけています。学問を追求するモチベーションは「楽しいから学ぶ」や「面白いからもっと学びたい!」という思いに勝るものではありません。私も学生と一緒にあって、さまざまな問いを面白がりながら講義を楽しんでいます。以前、ある学生から「先生って楽しそうに講義されますね」と言われたことがあります。私にとっては最高の褒め言葉と喜んでます。

学生におすすめの一冊

シビックプライド 都市のコミュニケーションをデザインする
シビックプライド 都市と市民のかかわりをデザインする
シビックプライド研究会（宣伝会議）

国内外のさまざまな取り組みを通して、シビックプライドを醸成する手法に迫っているととても興味深い本です。より多くの事例を知ることは、自らの知見を広げることにもつながります。また、この本はまちの「人」にもしっかりスポットが当たっています。「人がまちをつくる」ことも感じてもらえると思います。



学生の声



荻 祐梨子さん（2年生）

「正便益・不採算」はとても興味深い考え方でした。都市問題の多くは人に寄り添った思考で解決策を見つけていくため、お金では測れないものがあることを学びました。先生の講義は、何より先生ご自身の都市への深い関心や探求心が伝わってくるので、私たち学生も、自然と好奇心や意欲が高まっていると感じます。